

「アール・ブリュット」等の展覧会開催のお知らせ

芸術文化の面からダイバーシティの理解促進に寄与することを目指し、多様な個性の持ち主による「アール・ブリュット」をはじめとしたアート作品等の展覧会を東京都渋谷公園通りギャラリーにて開催します。

この度、展覧会の内容が決定しましたので、下記のとおりお知らせします。

記

- 1 展覧会名 「あら まほし Art, anything to access a world」
- 2 会 期 平成 29 年 11 月 9 日（木曜）から平成 29 年 12 月 17 日（日曜）まで
- 3 会 場 東京都渋谷公園通りギャラリー
（東京都渋谷区神南 1-19-8 渋谷区立勤労福祉会館 1 階）
- 4 開 館 日 木曜・金曜・土曜・日曜 ※毎週月曜・火曜・水曜と第二日曜は休館
- 5 開館時間 12:00 ～ 19:00
- 6 入 場 料 無料
- 7 開催内容 詳しくは別紙チラシをご覧ください。
会期中、関連プログラム（トーク、シンポジウム、参加型イベント等）も実施します。
※ なお、ギャラリーは平成 30 年度は改修工事のため休館、平成 31 年度にグランドオープンする予定です。

「2020 年に向けた実行プラン」事業

本件は、「2020 年に向けた実行プラン」に係る事業です。

「スマート シティ 政策の柱 8 芸術文化の振興」

本件は、「ホストシティ Tokyo プロジェクト」に係る事業です。

「 カテゴリー：魅力発信 プロジェクト名：東京文化プログラムの拡充・推進 」

問い合わせ先

文化振興部企画調整課 電話 03-5388-3178

東京都現代美術館（公益財団法人東京都歴史文化財団）

電話 03-3463-0610

はてしない表現の地平へ。

何をもってアートと呼ぶのか。

アートと日常の境界はどこにあるのか。

渋谷公園通りに誕生した「新しい表現の場」で、
いっしょに考えてみませんか。

To a world of boundless expression.

What makes it “art”?

Where do we draw the line between art and life?

Join us in exploring these questions

at a new “venue for expression”

now open on Shibuya Koen-Dori avenue.

OPEN!

新しいアートの

ワクワクに出会える!

Experience a new kind of art excitement!

東京都渋谷
公園通りギャラリー

Tokyo Shibuya Koen-dori Gallery

●次回予告

ボクと15人の王様と女王様の作品展

—こどもたちの小出ナオキつかいかた図鑑—

会期=2018.1.18 THU — 3.10 SAT

会場=東京都渋谷公園通りギャラリー

開館日=木・金・土・日曜日

※月・火・水曜日・第二日曜日は休館

開館時間=12:00—19:00 入場無料

協力=学校法人三幸学園東京未来大学こどもみらい園

出品作家=小出ナオキ、こどもみらい園のこどもたち

※内容はやむをえない事情で変更する場合がございます。

東京都渋谷公園通りギャラリー

〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-19-8 渋谷区立勤労福祉会館1F

TEL=03-3463-0610 FAX=03-3463-0613

E-MAIL=inclusion@mot-art.jp WEB=http://inclusion-art.jp/

Tokyo Shibuya Koen-dori Gallery

Shibuya Workers' Welfare Hall 1F, 1-19-8 Jinnan,

Shibuya, Tokyo 150-0041

TEL=+81-(0)3-3463-0610 FAX=+81-(0)3-3463-0613



【電車でお越しの場合】

●渋谷駅(JR山手線・埼京線・湘南新宿ライン／東急東横線・田園都市線／京王井の頭線／東京メトロ銀座線・半蔵門線・副都心線)ハチ公改札口より徒歩8分

【バスでお越しの場合】

●バス停「神南一丁目」下車 徒歩2分(傾斜あり)

●京王バス: 新宿駅西口より宿51[渋谷]／中野駅より渋谷63、64[渋谷] 笹塚駅より渋谷69[渋谷]／永福町より渋谷68[渋谷]

●都営バス: 早大正門より早81[渋谷駅東口] ※休日のみ 池袋東口より池86[渋谷駅東口]

●バス停「渋谷区役所前」下車 徒歩5分

●都営バス: 早大正門より早81[渋谷駅東口]

【注意事項】

①現在、当施設には段差や通路が狭い箇所がございます。ご了承ください。

②車椅子をご利用のお客様は、当施設設置の昇降機を使用して施設内にお入りいただけます。なお、設備の都合上、昇降機をご利用の場合や団体でお越しの場合はご来館一週間前までに左記お問い合わせへご連絡ください。

③当施設には駐車場はございません。お車でのご来館はご遠慮ください。お車の場合は、近隣の駐車場をご利用ください。

④お申し込みの際にご記入された氏名、ご連絡先などの個人情報については、個人情報保護法その他関係法令を遵守するとともに、その情報の運用については、東京都渋谷公園通りギャラリーが適性に管理し、連絡、及び事業の業務目的以外には使用しないものとし、その保護に万全を期してまいります。

あら まほし ara mahoshi

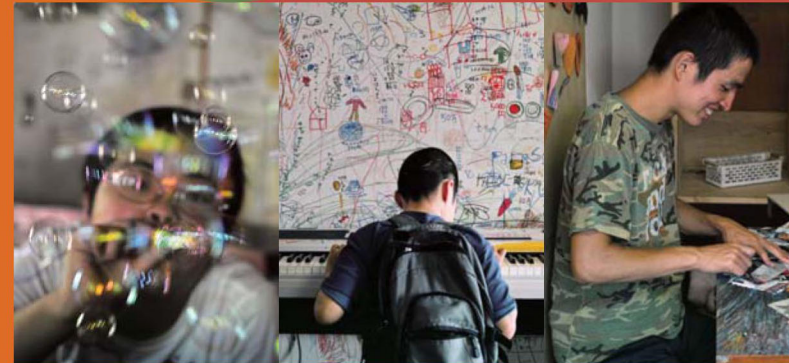
Art, anything to access a world



Ellie Omiya
大宮エリー

Masato Kobayashi
小林正人

Photo: Shigeo Muto



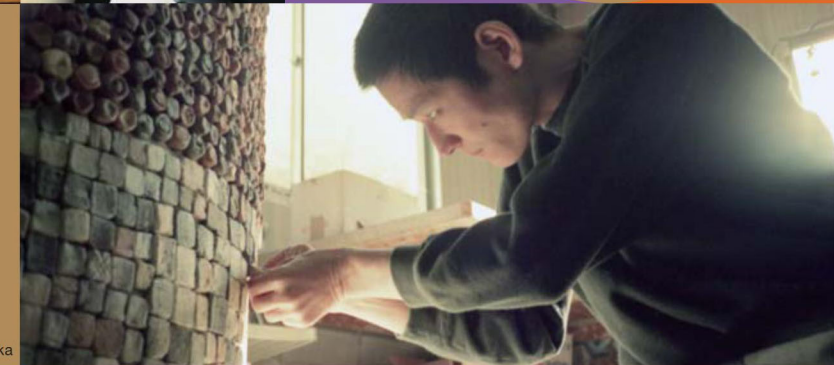
NPO
Creative
Support“Let's”

認定NPO法人
クリエイティブ
サポートレッツ

Photo: Tengyo Kura,
TURN 2017: Interactive Program

Komei Bekki
戸次公明

Photo: Keizou Tanaka



2017.11.9 THU — 12.17 SUN
東京都渋谷公園通りギャラリー

開館日=木・金・土・日曜日 ※毎週月・火・水・第二日曜日は休館

開館時間=12:00—19:00 入場無料

主催=公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館

協力=小山登美夫ギャラリー／シュゴアーツ

びわこ学園医療福祉センター野洲

VENUE=Tokyo Shibuya Koen-dori Gallery

OPEN=Thu, Fri, Sat and Sun

(closed every Mon, Tue, Wed, and 2nd Sunday of month)

HOURS=12:00—19:00 Admission Free

ORGANIZER=Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture, Museum of Contemporary Art, Tokyo

COOPERATION=Tomio Koyama Gallery, ShugoArts and

Biwako Gakuen Medical Welfare Center Yasu

アール・ブリュット。 でも、それだけじゃない。

そもそもアートとは何か。この自問自答から、この新しいギャラリー空間は誕生しました。「東京都渋谷公園通りギャラリー」では、アートの垣根を取り払い、多様な個性の持ち主による「アール・ブリュット」作品をはじめ、さまざまな作品の展示、交流、発信を通じて、ダイバーシティの理解促進に寄与することを目指し、広く問題意識を投げかけていきます。それは答えのない問いの連続。無限の地平へと、表現の境界を広げていく活動です。

初めての展覧会のテーマは「あら まほし」。

自分を取り巻く世界を判りやすく切り分けることで、身の周りのことを理解することに慣れすぎた私たちの日常で、心をざわつかせるものに接したときに、何が起るのか。
美は美のまま、醜は醜のまま、混沌は混沌のまま、そこにあるものとして、ただ、見つめ、その存在を感じることで、自らの世界を解きほぐす力は増大し、速度は加速するのではないのでしょうか。
何かの存在を意味する「あら」と、希求することを意味する「まほし」という二つの意味の間に、何かある／何もない空間を置いたタイトルの「あら まほし」は、「人が表現する」を詳らかにしようとするとき、表現することと生きることが肉薄した存在であり、本展覧会という空間 ―人が生きることについて感じる場― で起るであろうそれぞれの心の動きを期待するものです。

Art Brut and much more.
What actually is art? From this question a new gallery space is born―“Shibuya Koen-dori Gallery” where there are no walls dividing art. By displaying highly individual works of Art Brut and other artwork of all kinds, Shibuya Koen-dori Gallery seeks to promote understanding of diversity and raise questions on wide-ranging issues. Questions having no answers. Our endeavor is to open art endlessly in all directions.

The first exhibition’s theme―
ara mahoshi
Nowadays, we tend to categorize things in everyday life to make them easier to understand. But often the things we encounter defy categorization and confuse our feelings. To take things just as they are, accepting beauty as beauty, ugliness as ugliness and chaos as chaos, helps us understand the world and enables us to go deeper into the heart of things with greater speed. The exhibition “ara mahoshi” celebrates diversity. The word aramahoshi (“May it be so”) is formed of “ara”(existence) and “mahoshi”(wish). The blank space interposed in the title indicates the diversity of everyone’s wish for existence. When we recognize that all people have need to express, we will see that expression and life are inseparably related. The artworks and events of “ara mahoshi”are diverse expressions of life. It is hoped that each viewer, in experiencing them, will be moved to feel his or her own expressive existence.

【関連プログラム】

●トーク
2017.11.18 SAT 14:00―16:00
大宮エリー
小林正人
久保田翠〔認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ代表〕
水津 哲〔びわこ学園医療福祉センター野洲 粘土室担当〕
今回の展覧会に出品されたアーティストと関係者の方々によるトーク。トーク終了後は、来場者のみなさまとの交流の時間を設けます。

●シンポジウム
コーディネート by クリエイティブサポートレッツ
生きるアート
～障害福祉の現場から文化を考える～
2017.12.15 FRI 18:30―20:30
人が生きて在ることに直結する福祉の現場、そこで生まれる表現や編み出される術―それは言うまでもなく「作品」に限りません―について、福祉とアートの各領域からゲストをお招きします。

●クロージング・トーク
人が表現する
2017.12.17 SUN 14:00―16:00
大宮エリー
小林正人
建畠 哲〔詩人・美術評論家〕
絵画、ことばという表現方法をもつ3名が「人が表現する」ことをテーマにしたトーク。トーク終了後は、来場者のみなさまとの交流の場を設けます。

●佐々木誠監督
レッツの映画(観光編)上映会
2017.12.22 FRI 19:00―
レッツが始めた観光事業「タイムトラベル100時間ツアー」。その反響を届けるべく、映画監督の佐々木誠が製作したプロモーションビデオを本邦初公開！佐々木監督のアフタートークあり。

【参加型イベント】

レッツがやって来るヤア! ヤア! ヤア!
2017.11.23 THU 14:00―15:30
12.3 SUN 14:00―15:30
クリエイティブサポートレッツの運営する障害福祉施設「アルス・ノヴァ」を利用しているメンバーとスタッフが、浜松からやって来ます。彼らと共に過ごすことで、あなたの“当たり前”が揺さぶられる、そんな体験ができるかもしれません。

※事前申込制(定員10名) 見学は申込不要
お申し込み方法＝氏名・ご連絡先(E-MAIL アドレスまたはFAX番号)・ご希望の日程をご記載のうえ、各イベント開催から7日前までに、メールまたはFAXでご連絡ください。申込多数の場合は、抽選のうえ5日前までにご連絡いたします。

E-MAIL=inclusion@mot-art.jp
FAX=03-3643-0613



左〈蕾薇の予感〉
2015, acrylic on canvas
上〈君を想う窓〉
2015, acrylic on canvas
©Ellie Omiya,
courtesy of Tomio Koyama Gallery
Photo:Kenji Takahashi



左〈この星のモデル〉2016, Oil, canvas and wood
Photo:Shigeo Muto
上〈#3 (on the wall)〉2000, Oil, canvas and wood
©Masato Kobayashi, courtesy of ShugoArts / TURN FES 3

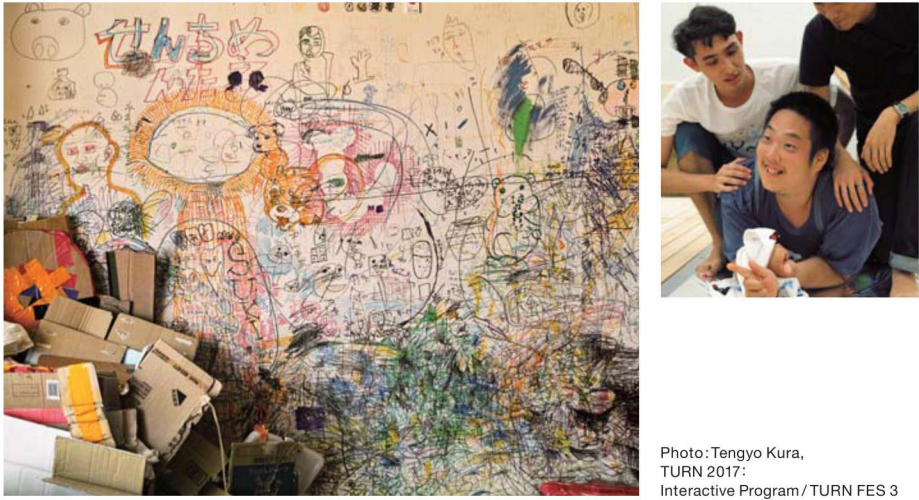


Photo:Tengyo Kura,
TURN 2017:
Interactive Program/ TURN FES 3



Photo:Tomoki Fujii

大宮エリー
活動拠点:東京都 ◆作家、脚本家、映画監督、演出家等として、様々な分野のクリエイターとジャンルを超えて活躍。2012年、東京国立博物館法隆寺宝物館で、初めてライブ・ペインティングを行って以降、画家として活動の幅を広げる。
近年の展覧会:2016年「シンシアリー・ユアーズ 親愛なるあなたの大宮エリーより」(十和田市現代美術館、十和田市内)

Ellie Omiya
Based in Tokyo ◆Omiya started her career as a painter in 2012 while working in various creative fields as a writer, screen writer, TV producer and stage director. Since then, she has pursued her passion for painting and undertaken live painting performances with musicians. Recent solo exhibition: “Sincerely Yours, Ellie Omiya” (Towada Art Center and Centaral Towada, Aomori, 2016)

小林正人
活動拠点:東京都、福山市(広島県) ◆常に枠組みから自由に、新たな絵画へ挑み続ける画家。1997年よりベルギーを拠点に各地で現地制作を続け、2006年に帰国。
パブリックコレクション:東京国立近代美術館、S.M.A.K./ゲント現代美術館(ベルギー)

Masato Kobayashi
Based in Tokyo, Fukuyama (Hiroshima) ◆As a painter, Kobayashi has kept searching for new ideas for painting, trying to be completely free from stereotypes. After moving to Belgium in 1997 and working in various places, he returned to Japan in 2006.
Public collection:The National Museum of Modern Art, Tokyo and S.M.A.K. Museum of Contemporary Art, Ghent(Belgium)

認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ
活動拠点:浜松市(静岡県) ◆「あたりまえ」から「あるがまま」に。あらゆる人が「ちがいを」乗り越え、人の生きる力を見つめてゆく場を提供しているアートNPO。私設公民館「のづあ公民館」障害福祉サービス事業所「アルス・ノヴァ」の運営/活動は、あらゆる枠組みを揺らし続けている。

Non-Profit Organization Creative Support “Let’s”
Based in Hamamatsu (Shizuoka) ◆Through their motto “From ‘as it should be’ to ‘as it is’”, Creative Support “Let’s” provides places for people to appreciate their differences. The organization runs the privately operated community center “Nova Komin-kan” and a welfare service facility for challenged people “Ars Nova”. Their activities have made an impact on conventional frameworks in society, not only in the field of welfare but also in art.

戸次公明
活動拠点:野洲市(滋賀県) ◆「外界のあらゆるもの、人や風、雨の変化を細やかに受け取りながら、それらを受止めることが苦手な戸次の繊細さは、1979年第二びわこ学園に開設された粘土室で、粘土「あそび」に出会う。その時々彼の想いが、現在も粘土あそびに映され続けている。

Komei Bekki
Based in Yasu (Shiga) ◆Sensitively capturing all things from the external environment, such as people, wind and rain, Bekki had difficulties controlling his acute sensitivity. Since Daini Biwako Gakuen, a medical welfare center where Bekki has been staying, opened a clay room in 1979, he started playing with clay. His thoughts and feelings at his own moments are reflected into his “play” with clay.